

News Release

2019年5月9日

昭和産業株式会社 2019年3月期決算の発表について

昭和産業株式会社（社長：新妻一彦）の2019年3月期連結決算は、売上高255,905百万円、経常利益9,786百万円となりました。2020年3月期連結業績予想については、売上高2,610億円、経常利益100億円を見込んでおります。

【2019年3月期連結決算】

当連結会計年度の我が国経済は、緩やかな回復基調で推移いたしましたが、為替や株価の不安定な動き等により、依然として先行きが不透明な状況が継続しております。

このような状況の中、当社90周年を迎える2025年度のありたい姿（長期ビジョン）「SHOWA Next Stage for 2025」を策定し、その実現に向けた足場固めと位置付ける1st Stage「中期経営計画17-19」に取り組んでおります。5つの基本戦略「①基盤事業の強化」「②事業領域の拡大」「③社会的課題解決への貢献」「④プラットフォームの再構築」「⑤ステークホルダーエンゲージメントの強化」の各種施策の推進に努めております。

当連結会計年度では、「①基盤事業の強化」「②事業領域の拡大」の施策については、昨年4月2日付でカルビー株式会社よりガーデンベーカリー株式会社の発行済株式の66.6%を取得し、連結子会社といたしました。当社は、株式会社セブン・イレブン・ジャパン向けに小麦粉・ミックス等の原料供給から冷凍パン生地の製造、焼成までの一貫体制を有しており、さらにガーデンベーカリー株式会社とその子会社タワーベーカリー株式会社を含めた相互連携を強化することで、競争力のある商品の開発と生産性の向上を図っております。

さらに、「②事業領域の拡大」の施策については、昨年11月に経済発展が著しいベトナムのハウジャン省に、ダイフオン製粉グループと合弁でMEKONG INTERNATIONAL MIX JOINT VENTURE COMPANY LIMITED（インターミックスメコン社）を設立いたしました。来年春にはプレミックス製造工場の操業開始を予定しており、既存のホーチミンの工場と併せまして2工場体制となります。

これらの結果、当連結会計年度の経営成績は、連結売上高が255,905百万円と前年同期に比べ22,739百万円（9.8%）の増収となりました。営業利益は8,443百万円と前年同期に比べ1,886百万円（28.8%）の増益、経常利益は9,786百万円と前年同期に比べ2,049百万円（26.5%）の増益、親会社株主に帰属する当期純利益は7,254百万円と前年同期に比べ2,360百万円（48.3%）の増益となりました。

【2020年3月期連結業績予想】

国内経済情勢につきましては、緩やかな回復基調が期待されるものの、為替や株価の不安定な動き等により、先行きの不透明な状況が継続するものと予想されます。

当社グループは、穀物の一次加工を主な事業としており、小麦、大豆、菜種、とうもろこしなどの穀物原料相場や為替相場の影響を受けます。今後も穀物原料相場や為替相場は不安定な状態が続くとみられ、当社グループを取り巻く経済環境は引き続き厳しい状況が予想されます。

このような状況において、当社グループは、当社90周年を迎える2025年度のありたい姿（長期ビジョン）「SHOWA Next Stage for 2025」を策定し、その実現に向けた足場固めと位置付ける1st Stage「中期経営計画17-19」に取り組んでおります。更なる企業価値の向上に努めることで厳しい経済環境に対処してまいります。

2020年3月期の業績は、連結売上高2,610億円、連結営業利益88億円、連結経常利益100億円、親会社株主に帰属する当期純利益70億円を見込んでおります。

業績予想の連結経常利益は、物流費やエネルギーコストの上昇などの外部環境の変化を踏まえ、100億円としておりますが、「中期経営計画17-19」に掲げる数値目標（連結売上高2,600億円、連結経常利益115億円、ROE9.0%以上、自己資本比率50%以上）に向けて邁進していく所存であります。

以上

〈本件に関する報道関係の方のお問い合わせ先〉

昭和産業株式会社 経営企画部 コーポレート・コミュニケーション室 担当：赤松

〒101-8521 東京都千代田区内神田2丁目2番1号 TEL：03-3257-2042